

御家 達

藝備孝義傳三編

廣島

卷四

三	和
四	書
六	門
二	
九	
五	
一	
七	
冊	架
架	函
函	號
號	類

五	三	內
八	四	和
函	六	書
一	五	
五	五	
架	冊	號
架	冊	類

第六

共十七

新刊

庫	文	閣	內
番	號	和	34655
冊	數	19	(4)
函	號	158	25



藝備孝義傳三編卷四

廣島

西愛宕町なつ

東愛宕町まつ

大須賀村新蔵

國泰寺下男菊松

東引御堂町白石屋文蔵手間茂兵衛

鍛冶屋町太平次

六町目利兵衛女か糸

空鞆町みよ

廣瀬村長蔵

同村とよ

同村まつ

塚本町平五郎妻あさ

西愛宕町勘助後家とん

孝義傳三編 卷四 目録

段原村とほ

稻荷町とや

水主町水主幸藏

文九郎女と

徳三郎姉女と

附勘花十花と

清花同弟國花

清三郎

作右衛門妻と

吉藏

和五郎兄弟

常藏兄弟

利七夫婦

亀次郎女と

勘太郎女と

猪之助

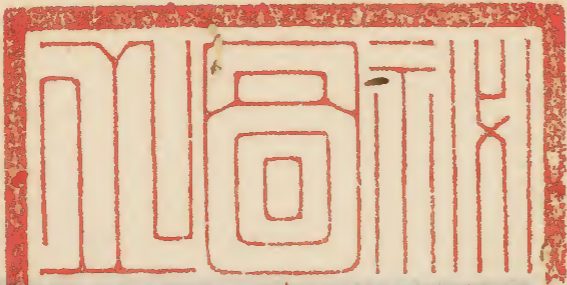
元五郎同弟保太郎

善藏

附録

江戸住醫師深井元立下男善助

[Faint, mostly illegible text in a large rectangular frame on the right page.]



藝備孝義傳三編卷四

廣島

○西愛宕町わづ

○東愛宕町まつ

くろいぶとひきまのい米屋の印を踏まど男子のこま
までもたさくらを少の賃を得て病る母を養ひ兄よも
意よ心とそらぬ母平日魚鮓を好むればたさど買求て
をめりるらるるきあうなれば母が心おんこを悲ま母その債を

たるぬることありて殊よやとてさす。買さふらふとて、
 價の半むくりも減りて登るおのが、おのよき、めりさめを
 ちらうめど、中々母が腸の病は罹りける時、この介保
 殊さらう奇特ありくれば、さき報林とるものありしよ、
 なつて孝初とておめらるんハ、恐多きことにて
 こそ貧窮の身生産よひくれ侍を心にまかせぬ
 事なとありといひて、いとあけさけるとぞ。天保六
 年未の七月賞して銀百三十目と下さる。○まつハ父を
 甚平といふ、さこの耕作をとりて生業とけけるが。

七十をくりよて病はかり。母もおあどく病て、せよ
 歩行にあやむ。妹あれど多病よて、助とならざるべ。
 まつびとて、糸の備紡し、また畑をつくり、薪を
 とり、あひひん人は雇れ力のおよぶか、さうをさうきて、
 五人の口と養ひつゆよ。おのせらあしき衣食して、
 父母よ、昔まをとあへ、暖よさせ、抑挫中でも、跡る
 おちくをうらひ、妹とち、なげぬ、かき、姉とることも、
 婿とることも、さあ人のまゝめ、飯肯すして、四十とらふ
 年と過し、さるも、たゞ父母の孝、さあ、妨あらんことを

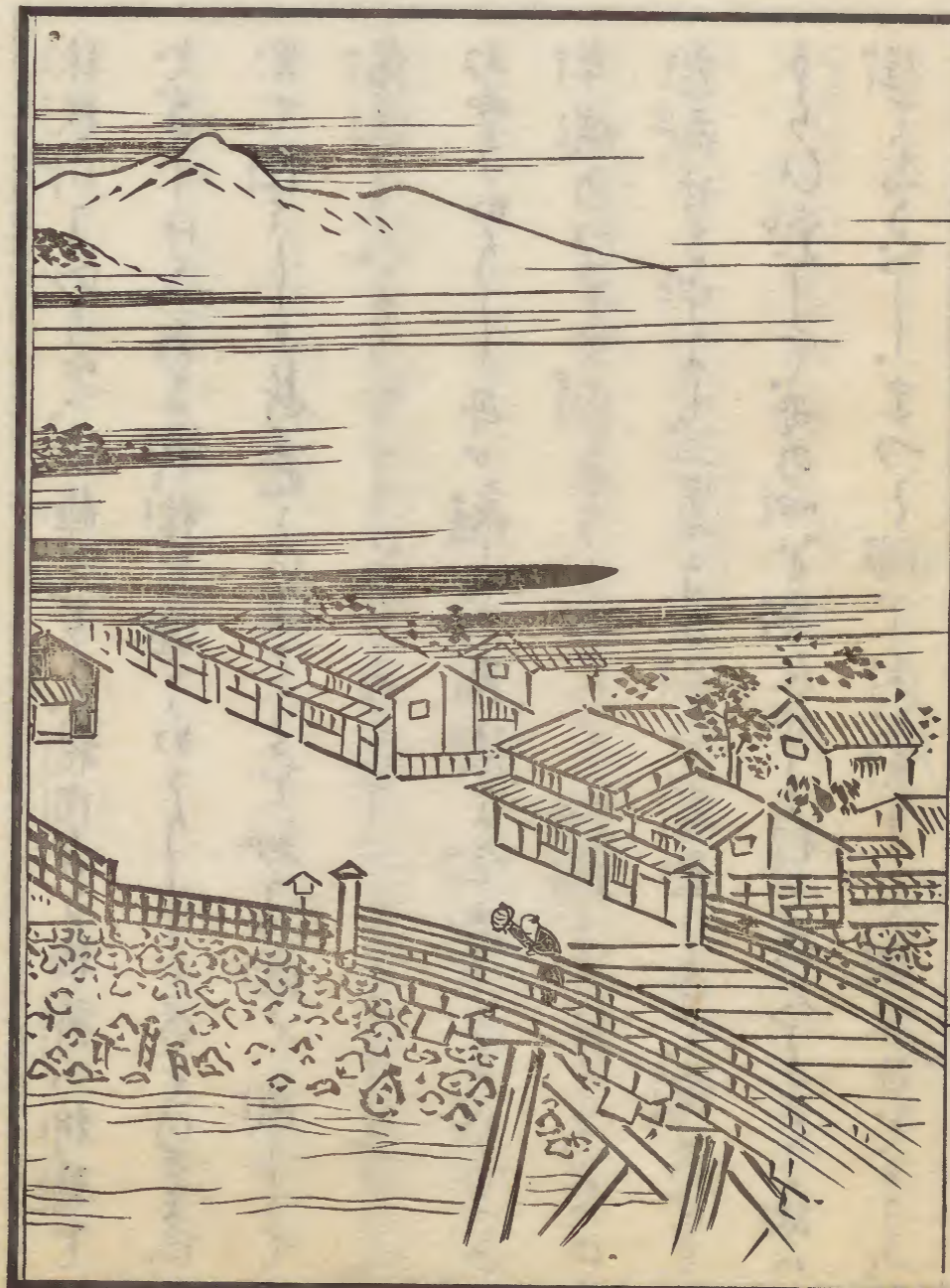
おそれてあり。なつと回どく賞せらる。その時、
今公近郊遊獵のとき、召見のひおのり鳥目一貫文と
下されける。是より下、桑松
まで並よ回し。

○大須賀村新蔵

新蔵ハ左七が子よりして町奉行の使といふを務め。
二親より事つて孝心厚し。十六歳の時母おむき熱病よ
ふやしくれば日夜側を離れず介保しつるが病勢
をけりく醫もよ成けぬるをうりたり。うば夜半
いとよ人の目を志のび寒氣の甚しきともいへば

猿猴川よりして堀離とどり。村内なる稻荷祈願を
せりける。ある夜橋を通りかゝりしものとき、夜
見て怪しむ。新蔵といふことを知り。深く感づて
落涙し。今もかゝりておめをゆりくる。なんかくて
あやかりし母が病も不思議に全快し。今も人々
孝感のいそぎふありといふ。歎けりける。その
病癒せる中にも二葉なる弟を瘡痍とあく懐いし。こ
らひ乳して母の心を安んぜむ。その人となり。後ハ
推してまづ。まつと同一歳貴し。銀百目せり。





新成時は二十歳なり。

○國泰寺下男菊松

菊松ハ父や藤四郎といひて安藝郡矢野村の民なり。
 菊松十六歳よりしてをドめて西条におはす。菊松ハ國の
 大地ちれば遍氣の僧多く來集りて日くの費用あび
 たる。一々事ごと。幹事のものも僧徒ちればさまで意と
 するものもあうりに。菊松この寺は仕つて後ハ米薪の
 出納より味増醬油のはくく。菜圃のここの中。おの
 おのが身は荷ひさす。くく。意とくく。節儉とむ。くく。

してさうらひけること三十餘歳の久きにおよび
 むれど。廉潔よりしていさう私あうり。くれ。寺中のもの
 皆その実意は感服。無用の費比減するの。寺法の
 ち。ゆりともなりけること。郷里ある父がうり。さら
 ひ。家田地をも。己がさうらさ。と。本のごく。買
 と。ど。老父を。心。さ。く。さ。せ。け。る。その。わ。う。美
 事。も。多。う。り。菊松が。ま。ま。ハ。寺院。に。は。る。奴。僕。の。い
 た。ぐ。ひ。ま。れ。る。と。の。な。れ。ば。藩。士。の。良。僕。は。準。せ。ら。ま。す。
 新成と。同。く。賞。せ。ら。る。

○東引御堂町白石屋文蔵手間茂兵衛

茂兵衛ハ安藝郡矢賀村の産にて十二歳の時より筆匠
 白石屋文蔵が筆細工の手習といふものをしりて日く
 文蔵が肆よゆきその職を怠らざり今之文蔵まで三代
 六十餘年の間文蔵が家と教ふこと主家のごとく誠実と
 比くしられぬやう手習職のこのまですも文蔵が肆よ
 あるものなり茂兵衛は化せられて自然と風儀も正
 しく立ちたる今之文蔵幼して家を續くは何事も
 之も茂兵衛がとりたてよよぬりかき歌傾きてハ

文蔵これをしてしり月毎よとの與つて細工を心
 するにあそびといひくれど日く肆よありてなるその
 業をあるくもされば文蔵も感称のあまなり官もさこそ
 くらふは柔松と同どく養せらる茂兵衛がと婿夫を未か
 養子たりしがよく子の道を教へ密父母死して後ハ
 家替といふもなく單身にて任あるとの家よ身と
 寓せしるる暮魄ぬれど養父酒をきよてありしくハ
 忌日よハかろらむ位牌ふ酒をそあつて禮拜するごと
 年久しく怠らざりし



○鍛冶屋町太平次

太平次ハ、鍛冶と業と人となり、萬実よあそれ、深き
 とのよて、兄弟親族よ睦しく、疾く、台け、ひ、鍛冶の
 才子とぶ、あひく、よ、考とけて、皆一家とあそ、町内、
 貧しきものをも、おのが家人のごとく、養ふ、せ、く、
 かき、が、蔭よて、世渡りとあそ、もの、少く、ら、げ、か、ま、り、町
 五人組、筆頭たり、一、が、か、る、もの、な、ま、り、町内、のもの、
 よく、便服、一、ら、ま、り、その子、佐兵衛、も、貞實の、生質
 よて、家業とそ、げ、親よ、事、つて、孝あり、これ、も、右、平次、が

教化の善よよれる、な、ま、り、褒賞ありて、三俵の米を
 賜ふ、文政八年、酉の二月、此、事、なり。

○六町目利兵衛女か祢 ○空鞆町みよ

か祢ハ、母よ、離れ、父、利兵衛、よ、事、つて、孝あり、父、八、年
 老て、眼を、や、替、者、も、あ、あ、ど、さ、ま、よ、て、生、産、を、な、
 え、ぎ、れ、が、か、祢、幼、より、習、ひ、は、一、足、袋、の、底、さ、を、こ、と、を
 あ、し、て、父、を、ま、ひ、け、る、が、素、より、女、の、業、の、ま、ら、ぐ、
 から、ず、し、て、惣、夕、の、烟、も、た、て、か、ぬ、る、を、か、り、な、ま、り、時
 こ、し、て、お、お、の、が、食、を、減、し、て、父、を、の、と、飽、む、と、し、

食物の蓄たくわハいくとやと問とてあれはいつもゆさうよさふ
 らふと答こたける。酒さけハ父ちちが好このむおふよあらざればどりくハ
 菓子かしやうれとの飯いひまゐらせ。常とこよ何なにくれと意いを配くりて
 そのころをよめゆこむらめゆさうも不ふ自由じゆうありと
 おもふこゝあらしめざりしとぞ寛政十二年まろふね市令いちれいより
 解とよ米こめ一斗ひとを與あつて父ちちが生涯しやうがいを扶たす助たすし。父ちち死して後のち
 まゝか糸いとよ米こめ若干そごをあつまる。この下をやうやうで皆市令の
 ○みよハ吾われを南なんといふ者の妹いもうとよて山田やまだ九郎くわん右衛門ゑもんが
 寡婦いせよはあるころと来きひさし。おやが年とし老おいて病やまひからなり

くれハ家いへまましく貧ひんしきよ陷おちけるがみよ晝ひる夜よ糸いとをこの
 貸かまどと飯いひまゝけ。介保かいほおらるかさましく心こゝろ力をけく
 しぬその情なさけのつこむるころと親子おやこといふとも。及および難がた
 一人ひとりぐわめをさしける。後のちよみよ人の勸すすよよりて
 一度ひとたびハ嫁よめもせしうど主家しゆけの事ことに時ときもさすれど。離婚りこんの
 後のちまご主母しゆぼの件ことよかたり貧ひんしき中なかあはれいつさうの
 切符きりふをも受けむしそが。づきせくうまつること。殊こと
 更さらよ厚あつくりしとあんか福ふくと同年おなとし錢ぜに若干そごをさくらる。

- 廣瀬村長蔵
- 同村とよ
- 同村まつ

長花ハ父母ヨ孝あり。父三右衛門。年七十ヨらえてお不健
なれば。少一の耕地をある一たり。長花ハ日く賃作ヲ出
けるが。父が畑ヨリ。かろろろひよ。かろろろぞ。ぬり来て
湯をころろ。おき。父が足であらふ。こらと孝あり。まご父
暑ヨくる。一ひこ。甚一。まよより。貧困のなまより。費
せむか。つ。も。ど。家。を。移。して。涼。一。地。に。居。む。母。病。る。小
及びて。衣。類。の。け。が。れ。を。長。花。に。づ。ら。洗。い。清。め。け。る。が。
その。間。着。せ。む。衣。さ。く。な。け。む。お。の。が。着。る。衣。を。ぬ
ぎ。て。母。に。着。せ。その。身。ハ。襦。袢。の。ま。れ。ど。室。衆。の。を。け。一。を

むも。更。よ。い。こ。ら。と。わ。り。母。死。して。後。父。は。泣。く。少。る。こと。
い。よ。く。厚。う。り。け。む。文化元年。費。して。銀。若干。を。與。つ。ら。る。
○と。よ。い。父。を。庄。八。と。い。ふ。鮠。魚。を。遠。郷。に。鬻。く。を。て。業。と
し。ける。が。年。老。て。ハ。意。の。ま。く。な。ら。む。母。ハ。ま。久。く。
病。に。卧。し。生。産。甚。き。ハ。ま。り。ける。よ。と。よ。一。人。して。女。工。を
勵。む。賃。ま。う。け。して。孝。養。の。力。を。盡。し。る。お。費。せ。ら。る。ま。
こ。と。長。花。は。同。ド。○ま。つ。ハ。父。を。存。せ。し。よ。母。ハ。そ。や。く。死。し。
父。ハ。中。風。を。病。を。足。あ。ら。て。祿。お。き。も。人。の。扶。助。を。く。て。ハ。
な。一。え。び。り。一。派。ま。つ。幼年。より。これ。よ。け。る。こと。いと

あつゝ冬の寒きにも身は單の衣のみまといひて糸
ひき繰くりあるは臼つくちなど日夜賃志ごとをせ
てて父より織字を知りめは是も長養らと回どく
貴せらる。

○塚本町平五郎妻あき

あき沼田郡相田村の産して平五郎が妻となり。男
権七と事つて孝あり。権七をトめ鍛冶屋町の裏借屋
は〜〜時平五郎は濱中脊を業とせしが権七は町内の
立番所は出ま〜川手門の開闔をもくけもちりて老夜と



老母と二人の幼児を遺し、をやく身まかりぬとん夫の
 商事を續ぎ、裁縫のこゝろをたげ、姑を養ふ。
 姑より八十より素より拵急なる性格よく怒言の
 こゝろ多けれど、とんよく承順ひて、その意よさをむ。
 之よりさなりより、夜毎、その好める酒を進めず、つゝ
 こゝろ近辺の人々かまが貧しく苦めるを憐れ、へ婿
 とりて、家計を助よと、きめくれ、とんハたし、姑を
 脊あひ見やせ、洗れて袖をきき、も己が力よ、姑を
 育む、他人入来りて、姑の泣く、跡あることあり

てハ先づ、人よ義理たむといひて、かゝくいあけけ。
 ま、姑の親類もあれば、さし、助をさぶ、といふ、このも
 あり、が、その姑の意よ適ふま、とて、終よその助を
 乞ひ、文化四年、賞して、銀百五十目を與ふぬ。

○段原村とは

○稻荷町を

とはハ父母ともよ九十餘、業よ、生産のい、か、
 あ、え、おの、か、一身を、お、お、お、お、
 心よ折言ひ、養、養、養、養、
 奇、奇、奇、奇、文化四年、賞して、銀百目を、

○七やハ父金茂は早くをまね年々く老母へ孝養を
けくし病の時介保並ありぬをりて文化九年米四
俵を與へらふその行状詳あらむ。

○水主町水主幸蔵

幸花ハ父を増右衛門といふその家九口ありて、
月俸あるが貧窶日よせまり身よやれたるひとの
衣どもとふをかりたり幸花幼きより孝友の心あつて
父母のくもしめるをみるに志のびど綿と彈子と耕
作よやくを身あるら葦簾まで逢はくることあど晝夜をも

らきてその家をとくく父母ハかれが利とくして
勤むることのまげられバ志むハ休めよといどかつて
怠ることあり父が船番所の當番よ風雨の時ハおのれ
義笠よゆき父が蓑よ代りてその務とありて父ハ歳
削り春といもハ餅と搗くこと飯はごりハ小幸花
日くゆる所の紗をきこづ貯あきて糕をつき
春を迎ゆるまめてもあける或糸を竹より屬吏よ
さくハその衣をくつてくることありその料を
與へらふあり隣伍のとの相をかりてかれがありて



中出さんとありし。孝花きこえて、これく。こまの公
 恩を救い。ふま。市救をうく。勿体ありとて。かこく
 して。りける。されど。やむべき。あらざる。なわて。遂に
 中出て。銭若干を。おぎのされ。き。故衣を。買ひて。
 父を。め。皆。あ。う。喜を。迎ける。文化元年子の
 三月。さら。奉行より。米三俵を。あ。その。行を
 あら。この以下。善花まで。同。く。水主。て。
 〇文九節女いく
 い。父母。つ。孝。母。腹を。痛。て。

久しく打掛しるるをかれ十葉に及たざるに母が
枕邊を去らざる介保の心をけくしひとくなるよき
がし孝養ますりくあつくまじ姉妹は友を多し家甚
るびりかりりれは常よ女工をせけりて家計をたすけ
父をして一日も休とめよおさらしめず後母の病
加まりては晝の夜も出ず夜は快く寐せしめてまでさきり
をこりの暇なきも猶織縫よこしをけしめて薬食の
費をこまきまけるよとまん一とせ姉も病よかりけるふ
折しと父の旅の留おちりりればいく一人母と姉とを

看病して心をこめてめをこくくくたふよとの
なりかろいみとをけ行ありりれば文化元年三徳の
米をあそて考せりる時よいく葉十六あり

○徳三郎姉ぬい 附勘藏 十歳 もん

ぬい孝友の心厚く一とせ疫癘さかんよおこなをれて
かきしが家皆病こふりるよぬい右よ父母は介保し
左よ弟をりりりり心力を考せりるさほ人よかおよび
かきしとせ父死して後母は幸あることまきり
母は病なく病がらなるよ弟の泣き声ハ幼くして家

家もよきし。今その時ぐの衣服上下やうのもの
 せで、こもぐくくとあつて、父をよろこばせらる。けよ
 孝子あらずやと人ぐその行を認めぬ。ぬおきて、
 清花よ鳥目一貫五百文。國花よ米二俵をあさるる。
 文政五年れこなる。

○清三郎

清三郎ハ父武七ガ職をけぎ。おありて、よくその職よ
 かるし。孝心まこ人よ超たり。父病よ卧してよりハ、食
 せくもがくたが。生鏝をのこ好く。これをかよ箸

を賜くれ。清三郎風雨のまけしををもいひ。日
 ごとくふ。市よゆきて買帰る。醫療ハこころよ心なちみ。
 カの及かぎり。おたし。どの効あつて。遂よこす。ぬ。
 清三郎展墓する。こおこらる。ば。考よ。墓域をさる。ひ
 ちよめ。墳墓の見ゆる。あつりよ。い。い。つ。も。跪。足。し。
 ち。身をかめて。敬禮せる。さ。は。人。を。か。感。ト。あ。つ。り。父。
 死して。後ハ。家のこと。大小をさく。母よ。問。謀。り。あ。つ。て。
 専らよ。さ。る。こ。ろ。さ。く。平生たが。母の心を。安ん。ぎ。る。飯。
 む。ひ。こ。お。の。れ。と。病。る。こ。あ。れ。が。お。や。め。る。こ。ろ。まで。



おかくくしそ母をうれひしめど母が病をかり
 一六公用の外は時も左右を去らざりて湯薬まて食
 物もかまらざりてさづらう嘗て後これを進め寒くまはり
 ゆくころの母が足冷ぬれど火燗ようれバ上逆のうれひ
 あるをもて終夜おのが膚よそ母が足をあてむる
 おどあそころとこめて孝養一する清花らと同日年
 孝一と銀三十目と與らる。

○作右衛門妻よ祢 ○吉蔵

よ祢い父を貞平といふ作右衛門が妻とまらりよく姑よ

けふ姑生魚を嗜むれど、多しとて、はよ飽む。む
 こゝあゝとす。よ糸、漆くこれとて、むすひ、これく、食
 られ、優よ世をおくらしむる、こと、かたむ、む、せ
 めく、食物、不、快く、まゐらせたさ、もの、とて、日夜、糸
 機、の、女工、を、は、く、め、日、ごとく、魚、を、買、ひ、て、ま、め、ま、め、
 他、よ、ゆ、く、時、の、口、よ、か、さ、り、の、を、取、換、り、て、は、れ、く、と、あ、ぐ
 ま、む、姑、瘡、積、の、宿、疾、あ、り、て、志、を、く、腹、を、つ、ま、し、が、服
 薬、ま、る、ら、と、と、を、ま、ら、ひ、た、が、按、摩、鍼、の、も、ち、ら、あ、ら、れ、ば、
 痛、お、こ、る、と、ま、ら、い、よ、糸、風、百、毒、夜、の、い、と、ひ、あ、く、み、づ、ら、り

初、て、鍼、醫、を、む、し、醫、も、か、れ、が、清、遊、ふ、る、の、切、あ、る、と、
 ち、て、た、と、ひ、い、そ、が、い、と、事、あ、り、て、む、あ、む、こ、と、わ、ら、り
 一、と、ど、文、政、八、年、米、三、俵、を、與、つ、て、ど、の、孝、板、あ、ら、え、ら、る、
 ○吉、花、ハ、父、を、吉、長、甫、と、い、ひ、て、家、貧、一、れ、ば、務、の、い、と
 ま、い、の、草、葉、茶、を、刈、ま、り、磯、か、せ、さ、あ、ど、し、て、ど、の、生、計、を
 た、す、け、ら、る、吉、花、年、少、さ、より、父、母、を、養、ひ、む、こ、と、厚、く、
 父、酒、を、こ、の、こ、ら、れ、ば、吉、花、日、ごと、く、母、に、向、ひ、て、酒、ハ、用、意、
 ち、ら、た、ま、し、や、し、た、づ、ぬ、母、か、一、今、日、ハ、そ、の、ま、だ、て、ま、し、と
 じ、バ、酒、あ、く、て、ハ、父、上、い、う、ぐ、務、の、は、れ、と、厭、め、た、ま、

そんとておのが平日商は一鎊を取りあつめどく市は
ゆきて買かともめ父が病をせまらて飲めけるとて
よ絲と回し年米二俵と與て費せらる。

○和五郎兄弟 ○常蔵兄弟 ○利七夫婦

和五郎ハ恒次郎が子とて弟と亀次郎とつゝ兄弟同
しく純孝あり父病がちあればともはこれを買はるに
和五郎舟をこらきしと外はある時も夢見あしきこと
あれは直よわたり安否を伺て後ゆくまゝ友愛の情厚く
家貧しくて飢寒は苦しくぬる中は一衣一食をも互に

譲りあひ多るとぞ。○常花ハ弟を千代吉といふ。奥右衛門が
子なり。兄弟柔和しとてよろづ親の心よまごがひその
教導くこゝにいよく守りて露たがふことなり。○利七ハ
妻まつとせよ。養母に孝あり母のいのひあらき性格
あれど何事もよくやそらうけ答へられバサレ
いさかひもあらず。家常は睦まじりける。和五郎以下
もか。銀まて鳥目と与りて費せらる。吉茂らと回し
日なり。

○亀次郎女里やう

里やうい龜次郎が女もく半兵衛が孫あり半兵衛
 かへふき老老したるよ龜次郎もく福よりて心極ハ
 しくわりなれ生計まきくさるよりぬ里やうが母
 秘んごろよ舅夫を介保し幼子も多けれどかひくく
 たりまわり衣食も時よ衣ドてまかあひよく家たも
 ちなれば人あざりてやめちやー。寝老もあさづり
 ーが病て死す時よ里やう年十一あるが乳よえまれー
 いとけさる見を書夜ふところよしくかあててあてよ
 乳をわとめあふり後ふくるむもいひまく往くもいて



してきてくる。見まゝく人ごころに涙をながすぬらなかりき。その
 祖父および父は泣くころとす。並らうらげ弟仁三郎。
 祖父が職を續けしうとあふ幼くして家の事よ心も
 やらば。里やう。これとつとる。むらとあつく。こが身ハ
 弟は系様ののちよ心をつ。親しき人よとひる。女工
 をもかこのごころ。あらひ身をまむ。にくさき弟をたす
 けて。その務をもあさしめける。天保六年。黄し。米三
 俵であらうらる。里やう。時よ十六歳より。り。

○勤太郎女阿さ ○猪之助

阿さハ天性溫柔。よ。てよく。父母は泣く。母久く
 病て終。よ。せけるが。その病中日夜側。ありて。薬食
 より。接。さ。り。の。こと。まで。力を。尽。して。介保。せ。し。ら。と
 並らうらげ。その。後。父。も。ま。ま。病。を。け。き。こ。の。ま。ま。ら。う。ら。げ。も
 ち。え。び。し。て。父。も。ま。ま。日。よ。極。り。負。債。も。ま。ま。く。か。ま。ま。て。
 父。の。心。を。安。う。ら。し。め。ん。と。書。の。田。畑。の。や。と。ま。れ。よ。出。校。の
 系様の。賃。は。よ。身。を。抛。り。己。が。力。を。そ。と。て。遂。に。家。産。を。取
 る。わ。一。負。債。を。も。跡。ら。ば。償。ひ。て。父。が。心。を。安。う。ら。し。め。ん。と。書。の。

身よて六稀ちる行なりとて天保九年賞一て
米三俵と与ふ。○猪之助ハ七之助が子なり。至性ありて
父母よ事ふること厚し。母五年が病に卧して足か
ひは尊中よ居あがり。家事よ意と配りくれば猪之助
左右よ片き事い介保よ力を尽し孝ふその心を慰む
るをむしよ。すぐて衣食の事あど女のなを業をも
終りまぐけらひくれば母もあかくよろこびけり。ま
暇あ身ぶ父が耕地の畔をもろし。よろづ務めをこら
まて孝養たゆまらぬ。何きと母ト年米二俵を

賞一とふ。

○元五郎同弟保太郎 ○善花

元五郎ハ弟保太郎とせよ。父元花よはてして孝心深く
友愛もまごに及れり。或疾父病よかりて久しくい
たりしに兄弟よく母の言を中より己が身とくし
めて療養をつくるれば父も恙あきことをほり
賞して米二俵と与ふ。猪之助と同日年あり。○善花ハ
性柔順し。己が務を怠らぬ人と交ふことまご厚し。
父ハ前よ身まろし。母ハ多病まれ。善花力を盡し

給銀もるどくよあさざれど。吾助さるよまよとせび。
 只一心よ主家をまんど。忠誠を盡しつれお元立が同僚。
 せよその状をト出けるよより。享和二年戊の三月。
 銀百目下さきかれが奇特を旌はさる。

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible due to fading and ghosting.)

〇〇〇〇〇〇

